



ぼらんていあ通信

5月号
通巻 No.450

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2019年5月28日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/

特定非営利活動法人相模原ボランティア協会 2019年度（平成31年度）通常総会開催

議案すべて承認 財政面での改善計られる ボランティア不足を解決するには？



去る5月19日(日)午後2時よりあじさい会館3階研修室で2019年度通常総会が開催された。司会是小野理事。吉留副会長の開会の辞で幕を開けた。高橋会長は「平成最後で令和元年がスタートする節目の年の総会です。協会は昭和56年に設立し、今年で39年目になります。現在協会が抱えている運転ボランティア不足、事務局部門強化などの問題にも色々提案していただきたいし協会に5つある委員会にも参加していただければと願っています」と挨拶された。資格審査は堀会員が「正会員114名、出席者22名、議決権行使者25名、委任状28名、合計75名で総会は成立」と報告。議長に恒藤会員、書記に田中恵子会員、議事録署名人2名が推薦承認され審議に入った。

第1号議案 2018年度事業報告は高橋会長と町田副会長から、第2号議案 会計報告は吉留副会長から丁寧な説明があり、勝部監事から2018年度監査報告が終わると、議長が2案まとめて採決し原案通り満場一致で承認された。

第3号議案 役員を選出は、役員選出管理委員会副委員長勝部監事から理事名簿が提出され、異議なく満場一致で承認された。

2019年度役員

- 荒井 善友 (新任) 理事
- 石関 清美 (再任) 理事
- 小野 明雄 (再任) 理事
- 加藤 修 (新任) 理事
- 杉本 榮治 (再任) 理事
- 高橋 功 (再任) 理事
- 羽田 彌 (新任) 理事
- 大貫 栄 (新任) 無任所理事
- 勝部 幸三 (再任) 監事
- 西本 敬 (新任) 監事

新役員の皆さん



上左から 勝部氏 杉本氏
小野氏 石関氏
下左から 大貫氏 羽田氏
高橋氏 加藤氏

第4号議案 定款変更については小野理事が説明。法人運営の活性化を図るため、役員任期を改善(議案書を参照)

第5号議案 正会員会費の納入について、杉本理事から次のような説明があった。

会員の増進を図り入会時の負担を軽減するため、入会初年度の正会員会費を免除する。

第6号・第7号議案 新年度の事業計画予算については高橋会長が説明。

(質疑)

◆運転ボランティアのポイント制度は大変よい試みと思うが、ボラ協だけで担うのは荷が重過ぎるのではないか。行政にも負担してもらえないか？

*あまり大きく考えず隣の知り合いをちよつと乗せてあげるといふ感じがますますはよつとみよつと(笑)です。

◆説明がわかりやすかった。ハンディキャップ運行がうまくいかないようなマネジメント体制について引き続き話し合ってください。

*引き続き検討してまいります。

◆運転ボランティアが集まらない理由は？ 運転ボランティアを躊躇しないようなリスク対策は？

*人手不足で65歳以上でも働ける環境があることも一因です。もちろん車は保険に入っていますし、カーナビ、ドライブレコーダーなども搭載しています。なによりお客を乗せることも運転が慎重になるといいこともあります。

第4号から7号までの議案すべて原案通り満場一致で承認された。

盛りだくさんの議案もすべて無事に承認され令和元年の活動がスタートする。

(勝部・山崎)



会場の様子

ボランティアまつりに参加しました！

5月11日(土)、12日(日)

晴天に恵まれ、一日とも日中は暑いくらいだった。模擬店では冷たい飲み物がよく売れ、子供対象のイベントは親子連れで終日にぎわっていた。ボランティア協会はパレード、福祉バザー、模擬店に参加した。

【市民パレード】

高橋会長を先頭に車3台でハンディキャブ活動のPRと運転・介助者の募集を呼びかけた。

【けやき体育館福祉バザー】

手作りの品目当てに毎年来てくれる人もいて、売り手と買い手が再会を懐かしむ場面も。

【模擬店】

組紐実演販売は特に女の子に人気。緑と白のコントラストが若葉まつりにぴったりで、しょうと担当の野田さんの話のりまねもお困りもおおいしかったです。



提供いただいた品物や手作りの品が



模擬店も賑わいました



Twitter

ぼらんていあ通信版
ツイッターコーナー
ハンディキャブ運転

大賀 勝夫



私がハンディキャブ運転に関わったのは、ボランティア養成講座の開催を広報紙等で知り、養成講座を受講しました。受講後は、ボランティア協会の会員登録を行いました。ボランティアとして私に出来ることは、一人で外出するのが困難な方を、当協会所有のハンディキャブボランティア車で援助する事です。

利用会員の方の移動手段として、ハンディキャブボランティア車を運行しています。病院への通院・レクリエーションへの参加・買い物等への移動です。運行に当たり、行き先を地図等で確認し、目的地まで利用者の方に心配をかけないように、気を付けて運転しています。運行予定の時間通りに、自宅への迎え、目的地への到着時間に関心を持つよう気を付けて運転し、余裕を持って行くよう心がけています。

利用者の方を目的地まで送り、用事が済むまで利用者の方と連絡を取りながら駐車場等で待機し、自宅まで送り届けて喜んでもらえる有難いお仕事だと思います声をかけて頂いた時ボランティアをしていて良かったと思います。

まだ仕事をしているのでハンディキャブ運転が出来るのは、予定が空いている時だけの参加ではあるが、運転をすることが大好きなので元気で運転が出来るあじだは続けていこうと思います。

当協会所有の福祉車両やボランティアの自家用車を使用して援助する運転者の方が少ないので、出来るだけ多くの方の参加を望みます。

平柳真一さんを偲ぶ

西本 敬

この3月10日に会員の平柳真一さんが永眠されました。2月16日の新春ボウリング大会では大きな声で進行をしていたいたばかりでしたので、「うさたろー」と思いました。しかし、残念ながら事実でした。私よりも少しだけお若かっただけに、驚きとショックのこない感覚は今も残り続いています。

平柳さんは、「相模原市肢体不自由児者父母の会」の会長でした。昭和39年から始まったこの会は、肢体不自由児者が幸せに暮らせるために、療育、教育など福祉の向上を図る団体です。その後他の団体とともに、障がいのある人が自分らしく安心して暮らせる社会の実現を目指す「相模原市障害児者福祉団体連絡協議会」へ、さらにこのNPO法人化へとつながってまいりましたが、このうちでも平柳さんは活発に活動されてきました。

当協会との関係では、「やがみはらわらぬあいフエスティバル」を中心に、その後の現「ほかほからぬあいフェスタ」において、平柳さんは、実行委員会の中でもリーダーとして、大きな声で発言し、アイデアを出し、活性化に貢献されてきました。この数年は、病気もあつたのが、参加がなぐ寂しい思いをしました。また、2009年度からの6年間は、当協会の理事として参加され、主に交流事業の担当理事として腕を揮われました。特に、新春ボウリング大会では、参加者の増加や、寄付募集に奔走され、当日の進行でもリーダーシップを大いに発揮されました。

オジサンズ

ラウンジボランティア講座

～はじめてみよう～

ボランティア2019



5月10日(金)午後2時から4時まで、ポーノ相模大野の階にある南区地域福祉交流フロンジでボランティア講座が開催された。主にラウンジで行われているサロンなどで活動してみたい方を中心に、9名の参加があった。この講座の特徴は、1部が座学、2部は実際のサロン等体験、3部は体験報告のまとめの部構成になっていることだ。本日の座学は、市社協南ボランティアセンターの榎並さんと、ラウンジ相談員の関野さんが進行的だ。



すこし緊張きみに始まった講座

ラウンジ運営委員長の青木さんの挨拶で始まり、「ここには色々なサロンが沢山あります。出会うは大切だということも思っています。それぞれ考え方は違いますが、私は皆さんに喜んでいただけたことが何より嬉しくて、ボランティアがライフワークになっています」と伺った。次に受講生から「まず受講するきっかけについて、少し暇が出来たので・地域のために何か出来ることはあるのか・話し相手をしてみたい・体をこわしていても人の役に立てるとはないか・ボランティアを経験して自分を高めたい・自分自身の

ためにも何か出来ることをしたいなどの様々な思いを聞くことができた。

ここから本題に入り、配られた資料をもとに榎並さん、関野さんより丁寧な説明を聞いた。

＊ボランティアの心がまえについては

・困っている人を助けたい！ 誰かの役に立ちたい

・社会に恩返しをしたい！

・趣味や特技を活かして楽しく出来ることではないかな

・将来の仕事に活かせる活動をしたたい！

・自分の知識や技術を活かしたい！

これらは先に受講生から聞いたことと一致していて、私も思わず納得する。

＊このラウンジで行われている活動の紹介

みんなのサロン、コーヒーやさん、ほっかほっか、日本語教室など、ほとんど毎日なにかしら開かれている。昨年11月には来場者10万人を達成した。中には月4回開催しているものもあり、これはボランティアさんの理解と協力の賜物だった。

＊先輩ボランティアさんの話では

佐々木さんは「2016年の講座を受けて活動を始めた。楽しくやっています。原さんは「活動を始める中で自分の経験になかった話を聞けることがうれしい。参加者からのお社のことは特にうれしいな」など。



和やかに相談が行われている

次にラウンジと各地区のボランティア活動一覧表から自分のできるようなものを探して個別に相談に乗ってもらう。決まればすぐそれの活動口に参加して体験

何年か前から、肺の病気で、「いずれ、酸素ボンベのお世話になるんだ」と言われており、今年のボウリング大会でも、「いよいよボンベが迫ってきたよ」といったことを言われていました。「もうダメですか、お大事に」と申し上げたところでした。しかし、声も力があり、お元気そうだったので、「まだアツ」と思ったのでした。「いじやんとやろやろ」「それ、面白くない」といった前向きで大きな声が今でも聞こえてきます。合掌。

★ 験できること。この間会場内は賑やかになって来て和やかな雰囲気になってきました。

最後にボランティアを始めるにあたっての注意点を聞いた。特に私も気を付けなければと思ったことは、聞いた話はたぶん家族といえども他人に話さないこと。引き受けた活動の都合が悪くなったときは連絡をとること。そして悩んだら一人で抱え込まずラウンジや南ボランティアセンターなどで、活動を紹介してくれた窓口相談してみよう。ラウンジは年末年始以外いつでも開いていて様々な福祉情報を提供しているので、休みがてら気軽に立ち寄りたてはいいかがですか。(植野)



＊南区地域福祉交流フロンジ
南区相模大野3-2-2

ポーノ相模大野の階

TEL 042-701-33000



あなたの見つけた植物を化石にしませんか？



化石の焼き上がり。大きさは箸置き位です。



植物の化石を作る様子。

陶芸教室 [植] へのご依頼は、
中央ボランティアセンター
TEL:042-786-6181

作品づくりのために、様々な雑草を探し出すことにより観察する力や植物に対する興味を深めることが目的です。作ることや植物についての会話をしながら、進めていくことが、より深い体験となります。子供から大人まで参加が可能ですので、どなたでも陶芸体験ができます。陶芸は難しいのではないかという方でもこの機会にぜひ体験してみてください。申し込みは、お電話にてご連絡ください。

- 植物の化石を作る
- ① 近くの公園などを散策し、参加者自らが雑草を採取します。
(散策できない環境であれば応相談)
- ② 採取した雑草をきめの細かい粘土に写し取ります。
(葉脈や虫食いや葉の産毛のようなものまでくっきりと写し取ることができます)
- ③ 後日、焼成等の仕上げ作業を講師が行い発送されます。

ほっこりな♡ぼらんていあ(20)
陶芸教室「植」

県立相模原公園サカタのタネグリーンハウス内で行われている、陶芸教室の出張型のサービスです。

陶芸の体験として、いくつかプログラムがあります。その中でも一番人気なプログラムをご紹介します。

陶芸教室[植]は、中央区相生にある「社会福祉法人アトリエ」の地域貢献事業への取り組み、且つ障がい者理解促進事業の一環としての活動です。

「ぶんちゃん®マークの文盛堂」と地域の皆さまに愛され創業62年を迎えました。昭和32年9月に文具・書籍のお店として淵野辺で創業し、昭和60年3月に現在の千代田で大型駐車場を完備したお店をスタート致しました。平成21年には「相模原お店大賞」、平成22年には「神奈川県優良小売店舗」を受賞させて頂きました。

昭和から続くロングセラー商品や最新の文具まで、店舗の商品アイテムは30,000点以上あり相模原市では最大級の品揃えを誇っております。2Km圏内にはデリバリーサービスでいち早くお客様にお届けするサービスも行っております。

またオフィス家具や複合機・パソコンなどのIT機器の販売も行っており、弊社営業がお客様先にお伺いをしてお客様に合った最適な商品をご提供しております。

文具が盛える(栄える)という意味を込めて「文盛堂」。「文盛堂に行けば何でも揃う!」「文盛堂は仕事が早いね!」とお褒めの言葉を頂けるよう地域の皆さまと寄り添いながら、創業70年、80年、そして100年と社員一同邁進して参ります。引き続きご愛顧の程よろしくお願ひ致します。

令和関連や消費税対策のご相談も受け付けております!!



相模原市で活躍する会社紹介
神奈川県知事表彰「優良小売店舗」受賞
株式会社 文盛堂



尾作 太一さん

株式会社 文盛堂

代表取締役 尾作 晃 さん

専務取締役 おさくたいち 尾作太一さん (35歳)

〒252-0237 中央区千代田 6-1-18

電話：042-752-2303

E-mail: bunseido@bunseido.net

ホームページ: 文盛堂 で検索

URL: <http://www.bunseido.net>

事業内容

オフィス家具・複合機・パソコン

家電・ギフト用品・名入れ用品

印鑑・ゴム印・文具・事務用品全般

イベント情報

親子えいじ in 植物園カフェ

日時：六月二十日(木)

午前十一時～午後一時

場所：県立相模原公園・サカタのタネ

グリーンハウス内植物園カフェ

(南区麻溝台一八九九)

内容：

バイリンガル子育てに興味はあるけど、何から始めれば良いかわからない。子育てを機に自分も英語を喋れるようになりたい。そんなママたち向けのワークショップを開催します！
 プレママも大歓迎！英語が苦手でもバイリンガル子育てはできますよ。
 親子で楽しく英語にふれてみませんか？

講師：坂口 智佳

トニーズ イングリッシュ代表

バイリンガル子育てアドバイザー

対象：

0～3歳の未就園児とママ・プレママ

費用：1組200円(別途ランチ代

650円 ベーグル+ドリンクセット)

定員：十組(先着順)

申込・問合せ先：相模原公園管理事務所

電話：042・778・1653

ボランティア養成講座

基礎から専門まで学びたい方はこの機会に！

基礎講座(全3回)

日時・会場

①七月 六日(土) 午後一時半～四時半

あじさい会館六階展示室

②七月十三日(土) 午後一時半～四時半

市民会館二階第二大会議室

③七月二十日(土) 午後一時半～四時半

あじさい会館六階展示室

コース別講座(基礎講座修了者が受講できます)

☆視覚障がい者への援助

外出援助(五回) 九月十日～十月八日

午後一時半～四時半、八日のみ十時～正午

音訳ボラ(九回) 九月十日～十一月十九日

午前十時～正午

点訳(十回) 九月五日～十一月七日

午後一時半～三時半

☆福祉車両の運転・介助(三回)

七月二十七日、八月三日、八月十日

午前十時～正午

☆高齢者支援(五回)

九月二日～十月二十一日の月曜日、

午前十時～正午(実習日は九～十六時)

☆傾聴ボランティア(四回)

九月十三日～十月四日の金曜日

午後一時半～三時半

受講料 千五百円

(コース別講座は別途教材費など実費が必要)

問合せ先：相模原ボランティア協会

電話：042・759・7982

申込方法、講座内容などの詳細はチラシ、

協会ホームページをご覧ください。

理事会報告

五月十九日(日)総会終了後理事六名

オブザーバー新任理事三名出席

一、報告事項

◆広報委員会

・ぼらんていあ通信六月以降の内容検討を行っ

た。

・ホームページ閲覧者数が二千名を超える月も多

い。

◆ハンディキャップ委員会

・吉留理事担当事項の引継ぎと新体制を定めた。

二、審議事項

・正副会長は六月一日理事会で互選により正式決定。

・外部会議の担当理事を最終決定した。

・理事会開催日を原則、毎月第二土曜日とした。

三、その他

・ぼら通六ページのうち理事担当一ページの扱いは

継続検討する。

・昨年度の黄色いレシートキャンペーンの結果は

例年と変わらず、6万4千円ほど。

六月の理事会は

臨時理事会六月一日(土)、定例理事会八日(土)

ボランティア協会6月の予定

日	時間	内容
1(土)	10時	臨時理事会
8(土)	10時	定例理事会
10(月)	14時	傾聴委員会
11(火)		黄色いレシート キャンペーン
15(土)	10時 13時	HC委員会 事務局委員会
22(土)	11時	講座実行委員会
24(月)	13時	ぼら通印刷
25(火)	13時	ぼら通発送

市社協事業紹介 (その14 最終回)

全国的にお天気が不安定だった十連休も終わり、春から初夏へ季節は移りつつあります。ボランティア協会の皆さま、定期総会を終え、また新しい季節が始まりますね。お変わりありませんでしょうか。協会の理事職(無任所選出)として5年間、皆様とお付き合ひさせて頂いていただきましたが、今期より本会ボランティアセンターの大貫係長と交代することになりました。私(田所)同様、よろしくお願ひいたします。

さて、「みんなできえい」地域の力が育む人(やね)いまち(ながみはら)のスローガンのもと、市社協の活動や歴史などを紹介してきましたが、最終回の今回は「市民桜まつり」ふれあい・ふくしブース(今年も若葉まつりでした。)について触れたいと思います。

ふれあい・ふくしブース開始の背景

毎年、市立けやき会館横の公用車駐車場、桜まつりの際には「ふれあい・ふくしブース」と銘打ち、多くの福祉関係団体が出展しています。ボランティア協会をはじめ、市域、地区で活動するボランティアグループやNPO団体の他に、地区社協や地区民見協などが活動PRや財源確保を目的に、様々な展示や販売をしています。また、ふくしかの団体はこの出店の収益の一部を市社協に寄付して下さり、大変感謝しています。

ふくしかの「ふれあい・ふくしブース」いつごろから始まったか皆さんご存知ですか？事業

開始のきっかけは、平成十年代半ば頃の市の財政の見直しに伴う予算縮小、いわゆる様々な事業補助金等の一律減額でした。

現在もそうですが、官民協働による地域福祉を推進することにおいて、市の財政と市社協の事業財源には非常に密接な関係性があります。端的に表現すると、市の地域福祉推進方策は市社協を経由し、地区社協、ボランティア団体まで連動するものであり、ここに係る活動補助金や委託金の動向は、実際の活動に直結しています。

前述の平成十年代半ばの財政見直しでは、市社協への補助金も大幅な減額となり、地区社協並びにボランティアグループへの助成金も3年間で4割の縮減(1年目1割、2年目2割、3年目1割の縮減)が実施される非常事態になりました。当時、私はこの事業の担当をしており、多くの関係者からの強い要望との板挟みになり、胃の痛い毎日を過ごしていたことは辛い記憶です。

自主財源の獲得と関係者の交流を目的に

縮減が避けられないのなら新たな財源獲得の手段をーと模索したことのーつが「ふれあい・ふくしブース」の始まりでした。

当時、けやき会館横の駐車場は市が所有していましたが、管理は市社協が行っており、市民桜まつり当日も市社協やまちみどりの公社、体育協会等の公用車が置かれているだけの状況でした。

「このスペースを活用して福祉関係者が市民桜まつりに出展し、自主財源を獲得しながら他の団体との交流を深めることができなにか？」と考えたことが始まりでした。

事業を始めるにあたり、駐車場の目的外利用についての市との調整や、駐車場利用団体への協力依頼、参加団体の募集、現場管理の方法など、今では流れが出来ていることの様々な調整事項を手探りで進めていったことを思い出します。

ふれあい・ふくしブースの苦しみ

出店に慣れない団体の負担を軽減する為に、市民桜まつり実行委員会との調整は市社協ボラセーが行っています。その他テナントの調達や運搬、机の手配、参加料金の調整等、多くのことをボランティアとして職員が担っています。一般ブースへの参加と比較すると、かなり優遇されている状況です。事業開始当初はこうしたことを参加団体も理解し、協働事業として協力を得られていましたが、最近の運営方法や駐車場の利用等についての事前説明が参加者に浸透しておらず、強い口調での要望が、けやき会館職員や駐車場整理員、市社協職員に向けられることも多く、悲しい思いをしています。特に、けやき会館裏の障がい者駐車場への無断駐車は、福祉関係者として絶対にしてはいけないことと思えます。来年、同じような思いを、皆様の御理解をよろしくお願ひいたします。

市社協 田所

会員のひろば

様々なボランティア活動をなす
してはる會員の皆さん、その活動
の紹介や経験したことなどを語
っていただくといいですね。

金継ぎを深掘り

渡邊 亮



ボランティア協会への最初のかかわりは、設立
の準備が開始された昭和55年の1月、早いもので
38年になります。これまで「理事や事務局長など
も務めさせていただきましたが、現在は傾聴活動
にかかわっています。

今回は、ボランティア活動の1つとして、趣
味として取り組まれている「金継ぎ」(きんぎょ)につ
いて、ご紹介させていただきます。

近年、「金継ぎ」がブームになっていますが、金
継ぎとは「割れや欠け、凹みなどの陶磁器の破損
部分を漆(うるし)によって接着し、金(きん)などの金属粉で装飾
して仕上げ、修復の技法」のことを、破損部を漆
で修復した痕跡は「縄文土器」にもみられるとい
います。

室町時代以降、時絵などを用いた工芸の技術で
修理した器もありのままに受け入れる茶道の精
神の普及によって金継ぎに芸術的な価値が見い
だされるようになったのです。

私は陶磁器が好きで、「へろ飲み」の収集をして
いましたが、欠けた口辺を金で補修したべろ飲み
を図鑑で見ると金継ぎを知りました。



2004(平成16)年には東京・日本橋にある教
室で入門編を体験、定年退職後の2009(平成21)
年からは野田駅の近くにあるNHKカルチャーセン
ター(200年間通い)、2017(平成29)年からは御
徒町にある播磨漆行の「漆・金継ぎ教室」に通って
います。

金継ぎとは、①破片の接着、②欠けの埋め、③凹凸の
埋め、④下地作り、⑤金粉撒きという手順を進めます
が、漆は「温度70〜85%程度、温度20度以上で固
まる」という性質を持っています。瞬間接着剤では簡
単に接着してしまいますが、漆の場合は1〜2か月
かかる場合もあります。1つの器を修復するのに10か月
から1年ほどかかります。手間をかけ、苦労して修復
した器は愛着がわき手放しがたくなります。毎日
マイペースで取り組むのがいいですね。

最後に、「ご指導をいただいた工芸家の原一葉氏の
著書から「金継ぎの歴史」を紹介させていただきます。
まず、金継ぎに興味を持った方はYouTubeに
ある「金継ぎ図書館」をご覧ください。

「金継ぎが流行している。私が初めて「金継ぎ工
房」を出版した10年前には「金継ぎ」という言葉
や技術を知る者はごく少数の骨董収集家や茶の湯の
数寄者に限られていた。今や「金継ぎ」「金継い」は
知識人の常識であり、メディアでも人気話題とし
てよく取り上げられている。〈中略〉修復に漆を用
いる歴史は古代以来があるが、「金継ぎ」と呼ばれる
日本独自の漆芸が成立するのは室町時代である。〈中
略〉書院造の1つ正式な空間が決定され、この時代
には日本文化の根幹が確立する。1つとして茶道など

6月の記念日は？

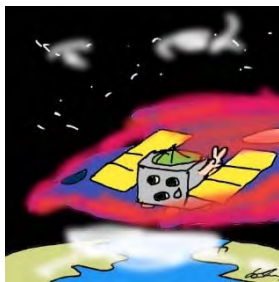
小倉義男

6月13日。はやぶさの日です。

2010年のこの日、世界初の小惑星探査で、途中で通信が
途絶え、行方不明になるなどのトラブルの末、見事に小惑
星イトカワの表面の粒子サンプルの採取に成功し、7年に
わたる多難な宇宙の旅を終えて、宇宙探査機はやぶさが見
事に地球に帰還したこと

を記念。最後に大気圏
に突入し、美しくも悲
しい壮絶な姿は、感動
で今でも心に焼き付い
ています。

小倉画



の流儀が成立していったのである。初期の茶道は、現
代の侘茶とは違い、ほんのり道真類が「渡りもの」
と呼ばれる船載品であった。希少な高価な道真類は破
損しても替えるはない。戦国時代という時世の荒波も「名
物」たちに試練を与えた。「金継ぎ」という補修の技術
が日本の文化まで高められたのは、歴史の中での人々
の知恵であった。「書見」の検知が「銀継ぎ」で得られ
るという相乗効果も重要な要素であった。〈中略〉現代
の日本では、必要とは思えないほどの物質が隆盛を極
めている。しかし、それでもなお「金継ぎ」に興味か
もたれているのは、今流行の「もったいな
い」や「リサイクル」とは違い、日本独自
の器物を慈しむ心であるに違いない。」



